



土面子 (つちめんこ)

メンコ / パッチン / ペッタン / ペッチン他



◆大原焼の土面子の型発見



大原東でみつかると
(明治から大正の頃)

◆めんこの歴史

<泥(土)めんこ> 江戸中期~明治前期



今戸泥めんこ



<鉛めんこ> 明治10年頃~33年頃



京都製の鉛飾り



<紙めんこ> 明治27年頃~平成



明治時代



昭和30年代



昭和40年代

土面子(泥めんこ)はパッチンの元祖

土面子は江戸中期から明治前期まで子どもたちの代表的なおもちゃとして遊ばれていた。

明治30年以降、紙めんこが普及するにつれ姿を消すが、一部の産地で土人形とともに寺社への参詣土産、郷土玩具として時折作られていた。戦時中にほとんどが廃絶する。大原焼でも作られていた。

鉛めんこ

鉛めんこは明治中期に大流行したが、毒性が問題となって玩具生命は20年余りで姿を消す。

紙めんこ

紙めんこはボール紙の国産化が軌道に乗り始めた明治27年頃から登場する。

明治40年代から大正期が黄金時代(大原焼の最盛期も同じ頃)と言われる。戦後の黄金時代は昭和30年代です。

※出典：鷹家春文(里庄町出身・京都在住)著『めんこグラフィティ』『めんこ』

